

平成 23 年度 京都大学グローバル COE プログラム  
「アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点」シンポジウム

## 社会の安全と人間安全保障の新しいパラダイムを考える — 東日本大震災の教訓から —

Exploring New Paradigms of Social Safety and Human Security  
: Lessons Learned from the Great East Japan Earthquake and Tsunami

日時：2011 年 11 月 22 日（火） 9:30 - 17:00（受付開始 9:15）

場所：キャンパスプラザ京都 5 階 第 1 講義室

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る Tel: 075-353-9111

対象者：関連する研究者，学生，一般

主催：京都大学グローバル COE プログラム「アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点」

共催：京都大学防災研究所

後援：読売新聞大阪本社、(公財) 京都文化交流コンベンションビューロー

### 【趣旨】

3 月 11 日に発生した東日本大震災は、M9.0 の地震とそれに伴う津波により、東北・北関東地域を中心として、人的被害は、死者・行方不明者合わせて 2 万 3 千名を超え、そして、被災地の直接的経済被害が 16 兆円以上という国難というべき被害をもたらしました。東日本の太平洋沿岸一帯に津波が来襲し、生活基盤や産業基盤が広範囲に被災し、8 都県で災害救助法が適用される広域災害であるとともに、福島第一原子力発電所における事故、それに伴う風評被害など、新たな複合災害の様相を呈しております。

政府は、東日本大震災復興構想会議を立ち上げ、「悲惨のなかの希望」と題した復興提言書を取りまとめています。そこでは、東日本大震災からの復興と日本再生の同時進行を目指すとともに、災害に強い安全・安心のまち、新しい強靱な地域の建設を進めることが織り込まれています。

京都大学グローバル COE プログラム「アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点」では、大規模災害などの脅威から人々を解放し、尊厳ある生命を快適に全うすることができる都市と都市群をデザイン・管理する技術体系である「人間安全保障工学」の構築を目指して教育・研究活動に取り組んでおります。

今回のシンポジウムでは、この都市の人間安全保障という視点から、東日本大震災からの教訓を学び、アジア地域での災害復興のあり方を共有するとともに、東海・東南海・南海地震などの将来の災害に備えた、新たな安全・安心とは何か、都市の人間安全保障を考える上で必要となる新しい研究・人材育成や実践科学のパラダイムを統合的に討議いたします。

第 1 部では、「東日本大震災では何が起こったのか」について、地震や津波のメカニズムから復旧・復興過程における課題についての研究報告を行います。第 2 部では、東日本大震災をはじめとして、アジア諸国における巨大災害での災害対応や復興に奮闘された行政担当者の方々を国内外から招聘し、復旧・復興の過程や現状について基調講演としてお話しいただき、巨大災害からの復旧・復興

の経験について共有します。

そして、第3部のパネルディスカッションでは、第1部、第2部で提供いただいた経験や知識や阪神・淡路大震災、台湾集集地震からの復興の経験を基に、都市の人間安全保障からみた東日本大震災での被災地域における復興のあり方や東海・東南海・南海地震などの今後の災害に備えて、防災や減災とともに、都市における人間安全保障や新たな安全・安心について討議します。

#### 基調講演

－陳 亮全（國家災害防救科技中心・センター長、国立台湾大学・教授）

#### 第一部：「東日本大震災からの教訓」

##### 研究報告

- －地震発生メカニズム
- －津波発生メカニズムと津波被害
- －巨大広域災害と複合災害
- －社会経済的影響
- －災害時コミュニケーション
- －災害廃棄物
- －都市計画・都市再生

#### 第二部：基調講演「アジアにおける巨大災害からの復興」

- －菅原 茂（宮城県気仙沼市・市長）
- －ハニフ・アリエ（インドネシア大統領府開発管理調整ユニット・副長官）

#### 第三部：パネルディスカッション「新しい安全の質を考える」

司会：多々納裕一（京都大学防災研究所・教授）

- －齋藤 富雄（兵庫県・初代防災監）
  - －宇恵 元昭（和歌山県・危機管理監）
  - －菅原 茂（宮城県気仙沼市・市長）
  - －ショウ・ラジブ（京都大学大学院地球環境学堂・准教授）
- －東日本大震災／スマトラ津波地震／阪神・淡路大震災／台湾集集地震
- ・巨大広域災害、複合災害、津波災害からの復興
  - ・アジア地域での災害復興の経験や知見を共有
  - ・将来の巨大災害にどのように備えるのか
  - ・強靱な地域とは、新たな安全・安心とは何か

本シンポジウムの詳しい情報はホームページ

(<http://hse.gcoe.kyoto-u.ac.jp/11gcoehse/hpj/index.html>) をご確認ください。

社会の安全と人間安全保障の新しいパラダイムを考える  
— 東日本大震災の教訓から —  
Exploring New Paradigms of Social Safety and Human Security  
: Lessons Learned from the Great East Japan Earthquake and Tsunami

プログラム

開 会 9 時 30 分 — 9 時 45 分

開会の挨拶

中島 正愛（京都大学防災研究所長・教授）

主催者挨拶

松岡 譲（京都大学 GCOE 「アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点」  
拠点リーダー，工学研究科 都市環境工学専攻・教授）

基調講演 (9 時 45 分-10 時 15 分)

「社会の安全と人間安全保障を目指した災害ガバナンスの実現に向けて」

陳 亮全（國家災害防救科技中心・センター長、国立台湾大学・教授）

休 憩 (10 時 15 分-10 時 30 分)

第 1 部 「東日本大震災からの教訓」 (10 時 30 分-12 時 00 分)

1. 「東日本大震災の地震動の特徴と道路・鉄道構造物の被害」

高橋 良和（京都大学防災研究所・准教授）

2. 「大震災の教訓を生かした津波氾濫被害予測手法」

米山 望（京都大学防災研究所・准教授）

3. 「津波避難情報と避難行動」

矢守 克也（京都大学防災研究所・教授）

4. 「東日本大震災における情報共有と ICT」

畑山 満則（京都大学防災研究所・准教授）

5. 「津波災害と災害廃棄物マネジメントについて」

平山 修久（京都大学大学院工学研究科 都市環境工学専攻・特定准教授）

6. 「都市・集落空間の形成履歴から今後を考える」

神吉 紀世子（京都大学大学院工学研究科 建築学専攻・教授）

7. 「地震時の人的被害低減に向けて」

清野 純史（京都大学大学院工学研究科 都市社会工学専攻・教授）

第2部 基調講演「アジアにおける巨大災害からの復興」（13時30分 — 15時00分）

司会 多々納 裕一（京都大学防災研究所・教授）

1. 「東日本大震災を経験してのメッセージ」

菅原 茂（宮城県気仙沼市・市長）

2. 「アチェから世界へ：津波からの教訓」

ハニフ・アリエ（インドネシア大統領府開発管理調整ユニット・副長官）

第3部 パネルディスカッション「新しい安全の質を考える」（15時30分 — 17時00分）

司 会 ： 多々納 裕一（京都大学防災研究所・教授）

パネリスト：

齋藤 富雄（兵庫県・初代防災監）

宇恵 元昭（和歌山県・危機管理監）

菅原 茂（宮城県気仙沼市・市長）

ショウ・ラジブ（京都大学大学院地球環境学堂・准教授）

閉 会

閉会の挨拶

大津 宏康（京都大学大学院工学研究科・副研究科長・教授）